

平成25年度 学校評価実施報告書

(京都市立花園小学校)No.1

1 平成25年度 重点評価項目

・言語活動の充実 　・豊かな心の育成 　・規律ある生活習慣の確立

2 1回目評価

2-① 自己評価 【 評価日 : 平成25年7月16日

評価者・組織(名称) : 学校評価委員会

】

分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1 確かな学力	コミュニケーション能力の育成	教職員・保護者・児童アンケート	「子どもが基礎的な学力を身につけること」「指導者がわかりやすい授業へと工夫改善をすること」の2項目については、「確かな学力の育成」の取組として好意的に評価された。反面、「子どもが自分の思いや考えを言葉や文章で表現すること」「子どもが人の話を集中して聞くこと」において実現度が低いという評価を受け、これが今後の課題であると教職員で共通理解した。	教職員が一丸となり基礎学力の定着に向けた授業改善、国語科をはじめとする各教科・領域等の特性に応じた言語活動の充実に向けて教材研究を行い、一層の工夫・努力をしていくことを確認し、実践につなげていく。
	わかる授業の創造	教職員・児童アンケートの意識分析、研究協議会の授業考察		
	基礎的な学力の定着	教職員・保護者・児童アンケート 学力学習状況調査		
	家庭学習の習慣化	教職員・保護者・児童アンケート		
2 豊かな心	あいさつの定着	児童アンケートによる意識調査	「子どもが人に優しく親切にすること」「子どもが規律を守り正しく行動すること」については、実現度が高い評価であった。 「あいさつ」については、児童自身はしているつもりであるが、保護者・教職員からみると実現度が低いという結果であった。	教職員・保護者・児童が同じぐらいの基準を持ってあいさつについての指導を行っていくかなければならないことを確認し、実践していく。 そして、家庭や地域にも働きかけ、協力を得ながら大人全体で今後の子どもたちの変容を図っていきたいと思う。
	規範意識の育成	教職員・保護者・児童アンケート 道徳教育全体計画の実施状況		
	豊かな心の育成	道徳教育全体計画の実施状況		
3 健やかな体	基本的生活習慣の確立	教職員・保護者・児童アンケート	子どもがしっかり朝食をとることについて実現度が高かった。これは各家庭が大切に子育てをされていることが反映されているものと捉えることができる。	「早寝・早起きができるですか」の問いに、23パーセントの児童、26パーセントの保護者が「あまりできていない」「できない」と回答している実態から、生活見直し週間等で生活リズムを見直し「早寝」「早起き」の習慣付けをご家庭とともにに行っていき、適正な睡眠時間の確保に努める
	運動部活動の充実	運動部活動の実施状況	「早寝・早起きができるですか」の問い合わせに、23パーセントの児童、26パーセントの保護者が「あまりできていない」「できない」と回答している	
4 学校独自の取組	読書・図書館教育の推進	教職員・保護者・児童アンケート 図書館活用状況	学校では、本好きの子どもが育つよう、地域の読書ボランティアの方やPTA図書の方、図書委員会の子どもたちによっていつでも活用できる図書館にしている中で、教職員・児童のアンケートからは「すくんで読書する」の実現度は高いが、保護者アンケートでは実現度が低い結果が出ている。家庭において読書する児童の姿が見えにくいのが課題である。	家庭においても、時間的にゆとりのある土日などに、また平日の宿題の後に、テレビやゲームの時間の一部を読書に充ててもらえるように働きかけを強化していく。
	食育の推進	地域人材の活用状況		
	地域行事への参画	教職員・保護者・児童アンケート		

2-② 学校関係者評価 【 評価日 : 平成25年9月18日

評価者・組織 : 学校運営協議会、学校評議員 (いずれかに○) 】

評価結果	改善に向けた支援策
<input type="radio"/> あいさつ・言葉遣いについて - 先生たちの前ではあいさつをする子どもたちも、見守り隊の前ではできないことが多い。 - あいさつのことばをかけても、知らん顔で通り過ぎてしまう子どもたちがいる。 - 自分からあいさつをする子どもたちであってほしい。 - あいさつや言葉遣いのしつけは、家庭でしっかりとしないといけない。 <input type="radio"/> 「子どもたちが楽しく学校に通っているというのが何よりうれしいこと」と、まとめていただきました。	- あいさつや言葉づかい、基本的な生活習慣等、大人の姿勢が大きく子どもに影響している。これからも子どもたちを取り巻く学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの教育、育ちの支援をしていかなければならない。 - あいさつは、まず、子ども同士であいさつすることが大切である。あいさつができる子を育てるには家庭の協力も必要である。

3 2回目評価

3-① 自己評価 【 評価日 : 平成26年2月28日

評価者・組織(名称) : 学校評価委員会

】

分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1 確かな学力	コミュニケーション能力の育成	教職員・保護者・児童アンケート	前期と同じように「子どもが基礎的な学力を身につけること」「指導者がわかりやすい授業へ工夫改善をすること」の2項目については、高評価を得て、教師自身わかりやすい授業創りを心がけているものの、「聞く」「表現する」については、子どもや保護者の回答は満足できるものではなかった。子どもたちがしっかり考え、それぞれのおもいや意見を交流して、考えを深めていくような授業を構築していかなければならぬ。	子どもたちの学習意欲がさらに高まるような工夫、考えをまとめるノートづくりの指導、自信をもって発表できるような話し合いの場を位置づけた授業づくりに行く。家庭学習を家庭生活の中にしっかりと位置づけ、宿題だけでなく、予習や復習など、子どもたち自ら取り組めるようにしていく。
	わかる授業の創造	教職員・児童アンケートの意識分析、研究協議会の授業考察		
	基礎的な学力の定着	教職員・保護者・児童アンケート		
	家庭学習の習慣化	教職員・保護者・児童アンケート		
2 豊かな心	あいさつの定着	児童アンケートによる意識調査	あいさつについては、保護者は厳しく、子どもたちは甘い自己評価になっているが、少しずつあいさつの姿勢はよくなっている。また、きまりを守って、友だちと楽しい学校生活が送っている様子もうかがえる。道徳教育を中心とした心を育てる取組において、自分の生活の様子を振り返り、好ましいあり方について考えることの成果が出ているのではと思われる。	今後も道徳教育とともに図書館教育にも力を注ぎ、より一層の充実を図り、子どもの変容が見える教育をし、心豊かな「花園の子」を目指していく。
	規範意識の育成	教職員・保護者・児童アンケート		
	豊かな心の育成	道徳教育全体計画の実施状況		
3 健やかな体	基本的生活習慣の確立	教職員・保護者・児童アンケート	リズムある生活をしてほしいと願い、「保健の日」の指導に限らず、さまざまな場面で「早寝・早起き・朝ごはん」を言葉にして、その大切さについて話してきた。朝食はほとんどの子どもがしっかりとれている。朝のあわただしい中でも、各家庭で心がけていただいている結果だと思う。	「早寝・早起き・朝ごはん」を目標に基本的には生活習慣の確立を図っていく。特に朝ごはんは、成長期の子どもたちの一日の活力の源となるもので、バランスのよい朝ごはんをしっかりと食べてこられるよう家庭へはたらきかけていく。
	運動部活動の充実	運動部活動の実施状況		
4 学校独自の取組	読書・図書館教育の推進	教職員・保護者・児童アンケート 図書館活用状況	子どもたちがルールを守りながら穏やかな気持ちで学校生活を送ることで、授業への関心も高まり、学年相応の学力もついてきている。子どもたちの「学校が楽しい」と思う気持ちを大切にし、さらに生き生きと活動していくよう、来年度も、保護者や地域の皆様と連携を図って取り組んでいきたいと思う。	本好きの子どもが育つよう、学校はもちろん家庭でも読書がしっかりと定着するよう学校でもさら家庭への働きかけを強め、読書活動の定着に力を注いでいきたい。保護者や地域の皆様と連携を図って取り組んでいきたいと思う。
	食育の推進	地域人材の活用状況		
	地域行事への参画	教職員・保護者・児童アンケート		

3-② 学校関係者評価 【 評価日 : 平成26年3月14日

評価者・組織 : 学校運営協議会、学校評議員 (いずれかに○) 】

評価結果	改善に向けた支援策
・「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を目指した学校教育は重要なことである。 ・それぞれの項目の評価において、児童と保護者との違いを感じる。立場の違いはあると思うが、「ものさしの幅と境界の違い」をはつきりすることが大切である。また、この違いは児童の実態と親の期待度が反映されたものもあると考えられる。 ・全体的に見て、「学校教育活動が、落ち着いて安定している」といえる。	前期と同じようなことになるが、あいさつや言葉づかい、基本的な生活習慣等、生活全般において大人の姿勢が大きく子どもに影響している。これからも子どもたちを取り巻く学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの教育、育ちの支援をしていく必要がある。

4 総括・次年度の課題

学校においては一人一人を大切に捉え、個性を生かした補充的、また発展的な学習課題を設定し、個々の学習のニーズに対応した指導の充実を図ることができた。「確かな学力の育成」の取り組みが好意的に評価されたと捉えられ、教職員にとって励みとなるものであり、重要度・実現度とも最も高く評価されたことは「充実した学校生活」につながるものと考えられる。今後より一層、子ども達にとって『学校が楽しい所であり、学習がわかる所』と実感できる学校創りに取り組んでいかなければならない。また、人間教育という観点からより「豊かな心の育成」に向けた道徳教育・人権教育の取り組みを教職員が協働して取り組んでいきたい。そして、これらの課題克服のために学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの教育、育ちの支援をしていかなければならない。